

ニュースレター

発行：自由律俳句設立準備会

自由律俳句協会発起人会を開催しました。

私ども準備会では、結社や個人のしなやかな連携の場を設けることによって「自由律とは何か？」という命題に対して、多彩な意見を集め、それらが化学反応しながら、あらたな短詩系文学の姿を世に示すように成熟していくことを目標に、議論を重ねてきました。その経過と今後の展開案について発起人の皆様にご報告し「自由律俳句協会設立総会（10月6日開催予定）」に向けて最終準備に入るために、9月9日 東京・江東区の芭蕉記念館の分館で「発起人会」を開催しました。参加者は、佐瀬広隆 白松いちろう 新山賢治 そねだゆ 寺田和可 中塚唯人 野谷真治 平岡久美子（五十音順 敬称略）の8名でした。



以下、式次第に従い、話し合いの骨子をご報告します。

◆ 準備会のこれまでの活動報告

「自由律句のひろば」が突然、解散しました。この状況を否とした有志が再び結集し、「自由律俳句協会設立準備会」を立ち上げました。短詩系文学の結集について、何故ひろばが破綻したのか、自由律俳句、自由律句、口語俳句、一行詩等の短詩系文学の結集ができないのか、そうした分析が再生に不可欠であるということで一致し、幅広くアンケートを求めました。こうした意見を資料とし、3月24日の準備会集会を開きました。この集会から、協会の行くべき方向が示されたと思います。

- ① 「ひろば」から示された「協会」という場が必要であること
- ② 一時的なものでなく、長く続けられるように、できることから始めてゆくこと
- ③ 短詩系文学を志向する結社や人達に有益なサポートができる開かれた組織であること

こうした共通認識のもとに、半年間、参加の呼びかけ、ニュースレターの発行、自由律俳句協会設立準備会のホームページの立ち上げ、発起人会の準備、総会の準備などの活動をしてまいりました。

◆ 会員の参加状況

本日までに参加についての返信は110名です。そのうち、会に「参加する」53名、「保留」13名、「参加しない」44名。団体、グループとしての参加が1団体ありました。立ち上げの目標として、参加者50名としておりましたので、まずは目標達成いたしました。

10月6日の総会については、9月9日現在の途中集計で、「出席」12名、「欠席」35名、議案の決議に関しては「会に一任」とした人が25名でした。

◆ 規約に関する提案

※発起人会で議論し作成した規約案を別紙添付いたします。ごらんの上、総会までに御一読のうえ、ご意見をお寄せください。当日欠席の方は、メール、FAX、郵送でも結構です。

◆ 活動についての提案

以下の企画の一つ一つをできるところからやっていきます。（会員からの企画提案も歓迎）

自由律俳句の句作者をサポートする活動

- ① 自由律俳句結社の場所と連絡先の資料作成
- ② 句会、吟行などの方法のノウハウの提供
- ③ 自由律俳句の手引きの作成
- ④ 過去の自由律俳句に関する書籍の収集と保管・蓄積
- ⑤ 書籍、句集の電子化

①～⑤に関しては、ホームページに掲載、蓄積していきます。

- ⑥ 自由律俳句集出版のサポート

協会として企画実行する活動

- ① 山頭火賞その他の企画実行委員会へのサポート
- ② 自由律俳句協会年鑑の作成及びサポート
- ③ 自由律俳句についてのパネル討論会、講演の企画 など

協会の常時活動

- ① ニュースレターの発行
- ② ホームページの立ち上げと更新
- ③ 各地の自由律結社及びグループとの連絡と提携 など

◆ 「自由律俳句協会」役員・事務局体制についての提案

「発起人会」では、以下のメンバーでの新体制案を総会に提案することを、決定しました。

- 会長：佐瀬広隆
- 副会長：中塚唯人
- 事務局：白松いちろう
- 会計：平岡久美子
- 会計監査：黒瀬布美子
- 企画・広報：新山賢治、そねだ ゆ、寺田和可、野谷真治、吉本知裕
- 地域連携部（地域ごとに世話人1～2名）：推挙された方と調整中（立候補も受付中）

自由律俳句協会設立総会を開催します。

★現在、参加受付中

日時：2018年10月6日(土) 14:00～16:30 会場：芭蕉記念館・分館

〒135-0003 東京都江東区常盤 1-1-3 TEL:03-3631-1448

内容：自由律俳句協会の設立、規約・役員・具体的活動計画の決定

※なお、総会后、同所にて懇親会を予定しております。